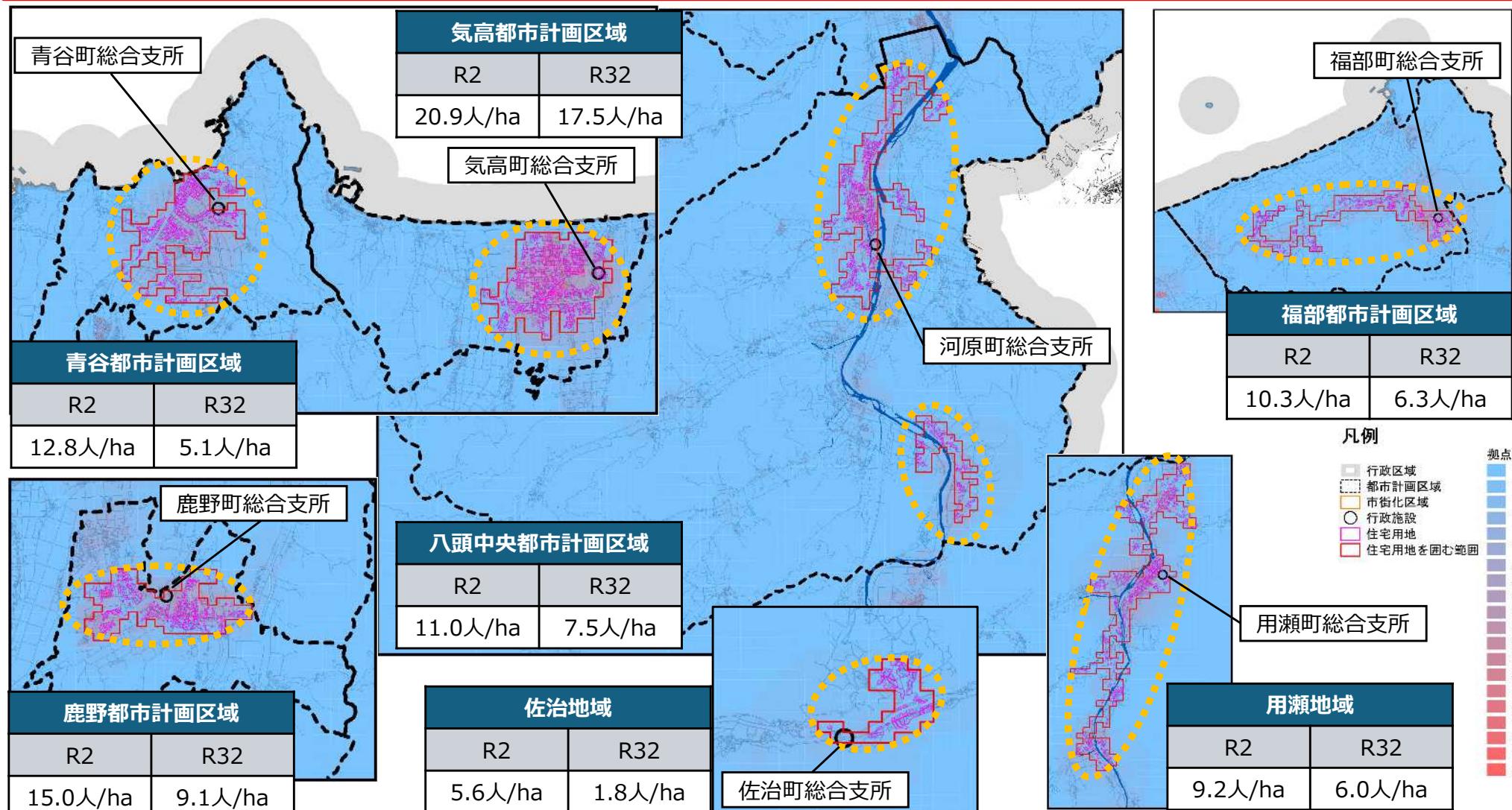


資料修正箇所

- ・資料1 17ページ
- ・資料2 4ページ
16ページ

○地域生活拠点（福部・河原・気高・鹿野・青谷・佐治・用瀬）におけるベースエリアの人口密度（R2及びR32）

- ・鳥取都市計画区域以外のエリアでは、鳥取都市計画区域における人口密度に比べ現状・将来とも低くなっている。
- ・各地域生活拠点の人口規模や地域特性を踏まえると、地域の日常生活を支える生活サービス施設や公共交通サービスを維持するためには、人口密度を高めるための区域設定を行うよりも、各拠点において一定の人口を維持することとし、地域の中心として各種取り組みの展開を図る拠点として任意の位置づけを行うものとする。
- ・なお、都市機能等の維持にあたっては、各総合支所や駅の周辺を拠点とし、日常生活利便性の確保を目指していく。



2 都市計画区域・市街化区域におけるハザードエリアの分布

修正箇所：赤字

《洪水浸水想定区域における計画規模と想定最大規模の主な違い》

	計画規模（L1）	想定最大規模（L2）
発生確率	およそ100年に一度の確率で起きると想定される	想定し得る最大の規模 (およそ1,000年に一度の確率で起きると想定される)
浸水範囲	想定最大規模（L2）に比べて狭い	計画規模（L1）に比べて広い
浸水深	想定最大規模（L2）に比べて浅い	計画規模（L1）に比べて深い

《多段階の浸水想定（年超過確率（1/30、1/50、1/100）の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深）》

	現況河道			短期河道（R6年度末）			中期河道（R14年度末）			中長期河道（R24年度末）		
確率規模	浸水 あり	50cm 以上	3m 以上	浸水 あり	50cm 以上	3m 以上	浸水 あり	50cm 以上	3m 以上	浸水 あり	50cm 以上	3m 以上

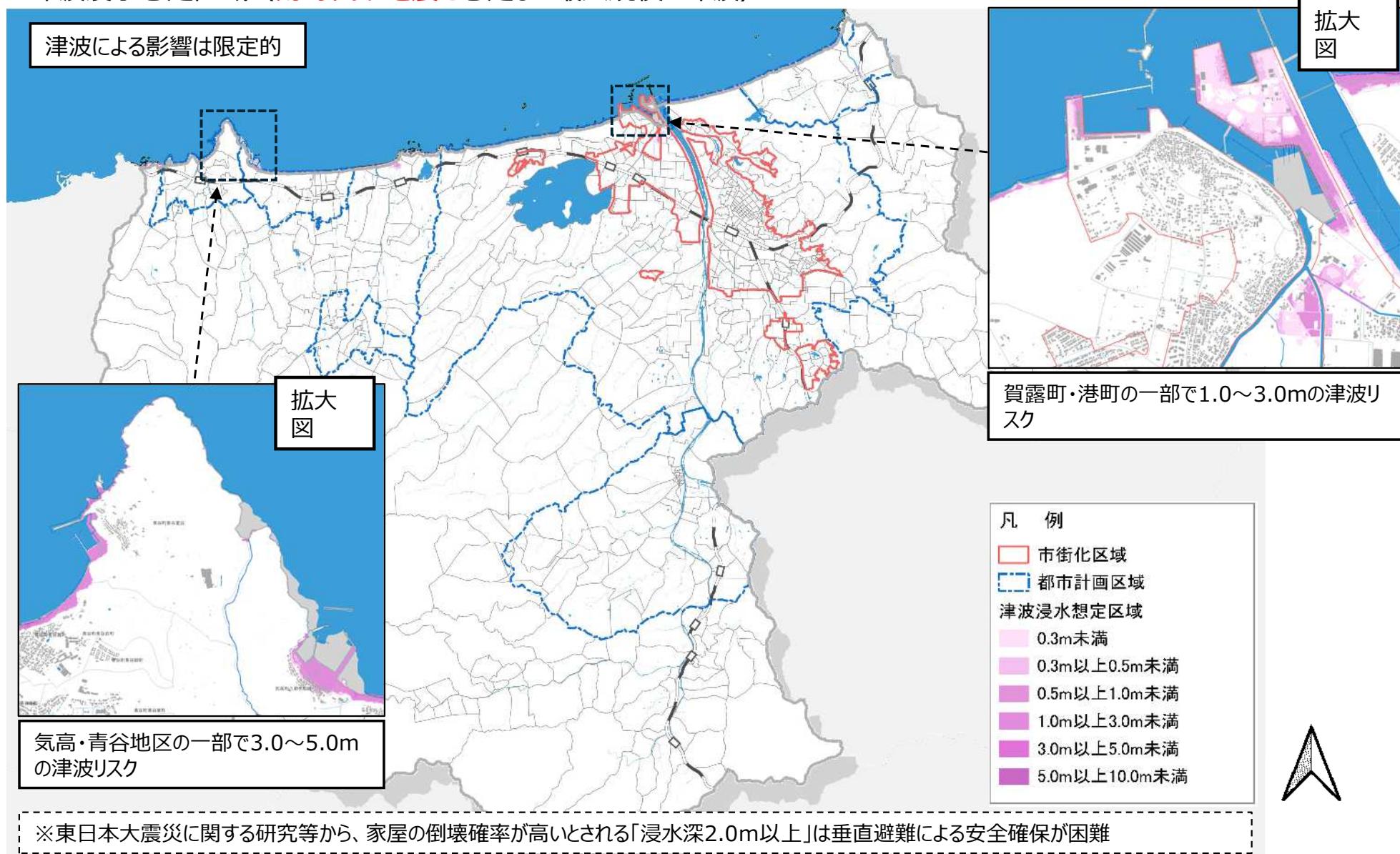
※年超過確率：毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率がそれぞれ1/30（3%）、1/50（2%）、1/100（1%）の降雨

※短期河道、中期河道、中長期河道：短期（R6年度末）、中期（R14年度末）、中長期（R24年度末）の千代川の河道の状態、洪水調節施設の整備状況を考慮したもの

2 都市計画区域・市街化区域におけるハザードエリアの分布

修正箇所：赤字

■津波浸水想定区域（南海トラフ地震を想定した最大規模の津波）



出典：鳥取市都市計画基礎調査